

甲賀市信楽町牧水害履歴マップ②

昭和 28(1953)年 8月・多羅尾豪雨

昭和 28(1953)年 9月・台風 13号

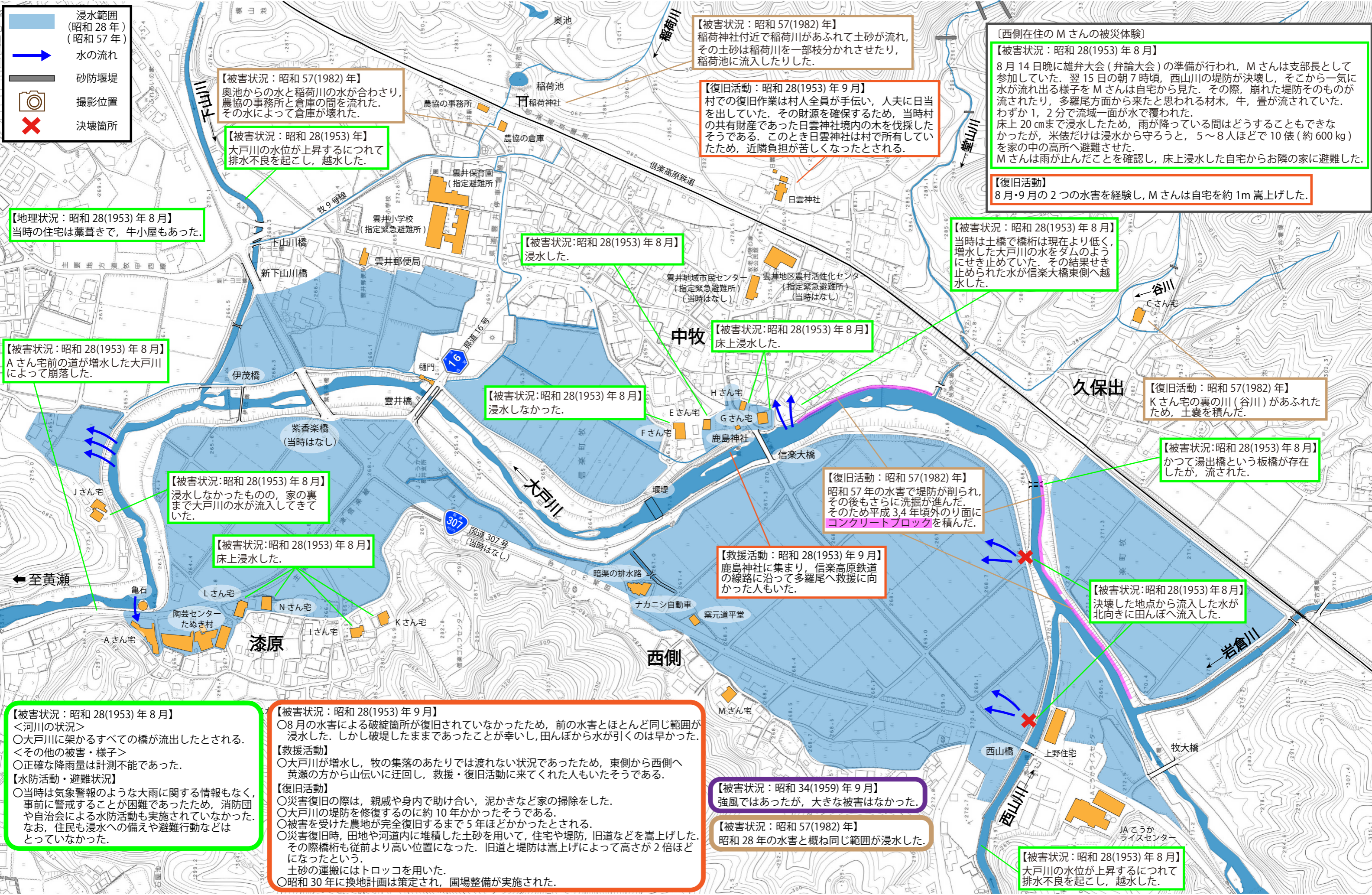
昭和 34(1959)年 9月・伊勢湾台風

昭和 57(1982)年 8月・台風 10号

0m 50m 100m

令和元年(2019)年9月11日に雲井地区農村活性化センターで行った聞き取り調査に基づき作成

作成 関西大学 景観研究室 (甲賀市信楽町都市計画地図上に加筆)



■ 浸水範囲 (昭和 28 年) (昭和 57 年)
→ 水の流れ
 砂防堰堤
 撮影位置
× 決壊箇所

【被害状況：昭和 57(1982)年】
奥池からの水と稲荷川の水が合わさり、農協の事務所と倉庫の間を流れた。その水によって倉庫が壊れた。

【被害状況：昭和 28(1953)年】
大戸川の水位が上昇するにつれて排水不良を起こし、越水した。

【被害状況：昭和 57(1982)年】
稲荷神社付近で稲荷川があふれて土砂が流れ、その土砂は稲荷川を一部枝分かれさせたり、稲荷池に流入したりした。

【復旧活動：昭和 28(1953)年 9月】
村での復旧作業は村人全員が手伝い、人夫に日当を出していた。その財源を確保するため、当時村の共有財産であった日雲神社境内の木を伐採したそうである。このとき日雲神社は村で所有していたため、近隣負担が苦しくなったとされる。

〔西側在住の M さんの被災体験〕
 【被害状況：昭和 28(1953)年 8月】
8月14日晩に雄弁大会(弁論大会)の準備が行われ、Mさんは支部長として参加していた。翌15日の朝7時頃、西山川の堤防が決壊し、そこから一気に水が流れ出る様子をMさんは自宅から見た。その際、崩れた堤防そのものが流されたり、多羅尾方面から来たと思われる材木、牛、畳が流されていた。わずか1、2分で流域一面が水で覆われた。床上20cmまで浸水したため、雨が降っている間は何かすることもできなかったが、米袋だけは浸水から守ろうと、5~8人ほどで10俵(約600kg)を家の中の高所へ避難させた。Mさんは雨が止んだことを確認し、床上浸水した自宅からお隣の家に避難した。

【復旧活動】
8月・9月の2つの水害を経験し、Mさんは自宅を約1m嵩上げした。

【地理状況：昭和 28(1953)年 8月】
当時の住宅は藁葺きで、牛小屋もあった。

【被害状況：昭和 28(1953)年 8月】
浸水した。

【被害状況：昭和 28(1953)年 8月】
当時は土橋で橋桁は現在より低く、増水した大戸川の水をダムのようにせき止めていた。その結果せき止められた水が信楽大橋東側へ越水した。

【被害状況：昭和 28(1953)年 8月】
Aさん宅前の道が増水した大戸川によって崩落した。

【被害状況：昭和 28(1953)年 8月】
床上浸水した。

【復旧活動：昭和 57(1982)年】
Kさん宅の裏の川(谷川)があふれたため、土嚢を積んだ。

【被害状況：昭和 28(1953)年 8月】
浸水しなかった。

【被害状況：昭和 28(1953)年 8月】
かつて湯出橋という板橋が存在したが、流された。

【被害状況：昭和 28(1953)年 8月】
浸水しなかったものの、家の裏まで大戸川の水が流入してきていた。

【復旧活動：昭和 57(1982)年】
昭和 57年の水害で堤防が削られ、その後もさらに洗掘が進んだ。そのため平成 34年頃外のり面にコンクリートブロックを積んだ。

【被害状況：昭和 28(1953)年 8月】
床上浸水した。

【救援活動：昭和 28(1953)年 9月】
鹿島神社に集まり、信楽高原鉄道の線路に沿って多羅尾へ救援に向かった人もいた。

【被害状況：昭和 28(1953)年 8月】
決壊した地点から流入した水が北向きに田んぼへ流入した。

【被害状況：昭和 28(1953)年 8月】
 <河川の状況>
 ○大戸川に架かるすべての橋が流出したとされる。
 <その他の被害・様子>
 ○正確な降雨量は計測不能であった。
 【水防活動・避難状況】
 ○当時は気象警報のような大雨に関する情報もなく、事前に警戒することが困難であったため、消防団や自治会による水防活動も実施されていなかった。なお、住民も浸水への備えや避難行動などはとっていなかった。

【被害状況：昭和 28(1953)年 9月】
○8月の水害による破綻箇所が復旧されていなかったため、前の水害とほとんど同じ範囲が浸水した。しかし破堤したままであったことが幸いし、田んぼから水が引くのは早かった。
 【救援活動】
 ○大戸川が増水し、牧の集落のあたりでは渡れない状況であったため、東側から西側へ黄瀬の方から山伝いに迂回し、救援・復旧活動に来てくれた人もいたそうである。
 【復旧活動】
 ○災害復旧の際は、親戚や身内で助け合い、泥かきなど家の掃除をした。
 ○大戸川の堤防を修復するのに約10年かかったそうである。
 ○被害を受けた農地が完全復旧するまで5年ほどかかったとされる。
 ○災害復旧時、田地や河道内に堆積した土砂を用いて、住宅や堤防、旧道などを嵩上げた。その際橋桁も従前より高い位置になった。旧道と堤防は嵩上げによって高さが2倍ほどになったという。
 ○土砂の運搬にはトロッコを用いた。
 ○昭和30年に換地計画は策定され、圃場整備が実施された。

【被害状況：昭和 34(1959)年 9月】
強風ではあったが、大きな被害はなかった。

【被害状況：昭和 57(1982)年】
昭和 28年の水害と概ね同じ範囲が浸水した。

【被害状況：昭和 28(1953)年 8月】
大戸川の水位が上昇するにつれて排水不良を起こし、越水した。